

討論形式による授業について (2)

教育心理 佐藤公代

< 問題と目的 >

昨年度に引き続き、2回生対象に「児童期の諸問題」を分析する。昨年同様、「講義」-「グループ討論」-「各班からの討議内容報告とまとめ」という形式にした。

仮説は次の通りである。

(1) 項目の興味の持ち方によって、討議の深まりは違って来るだろう。

(2) 週半ばの1時限という時間には、遅刻、欠席者が多いだろう。

< 方法 >

1) 期日：2008年1月23日(水)に調査した。

2) 対象者：2回生～4回生、計10名

3) 手続き：自作のアンケートで無記名により調査し分析した。

< 結果と考察 >

アンケートにそって分析結果を述べる。

(1) 討論形式の授業に「非常に興味をもった」20%、「興味をもった」80%で全員が興味をもっていることがわかった。

「非常に興味をもった」理由は、「一つの内容について、いろいろな人の意見を聞きたいと思ったから」である。「興味をもった」理由は、「他の人の意見や体験にもとづく話を聞くことができたから」「自分の児童期をテーマに沿って思い出し、それを他の人に話す機会は、考えてみれば普段できることではなく、子どもの発達を勉強する際、自身を思い出すことは良い経験になった」「学生の体験を生かした授業となったと思うから」「このような学生自身が主体となる講義は少なく新鮮だった。人の様々な意見が聞けるため」「心理の学生が多いだろうと予想していたので、心理の学生間で考えが深まるのはいいなと思ったので」「やりやすかった」である。

(2) 討論形式の授業は「非常に役だった」10%、「役だった」80%、「わからな

い」10%で90%の学生が「役だった」と回答している。「非常に役だった」理由は、「初めて話す人もいたけれど。毎回討論形式だったので、顔見知りになって話し易い雰囲気になっていたのである。」「役だった」理由は、「いろいろな意見を聞くことができたから」「自分とは異なる意見や違う視点を知ることができたから」「話すことは役に立つと思う」「いろいろな体験をしている学生を知り、理解を深めたから」「いろいろな人の意見がきけた」「それぞれの人自分と違った意見を持っており、違った視点で、その問題をとらえることができたため」である。学生は、色々な視点からの意見を聞いてお互い深めあっているようにしているのであろう。他人と違うことを認め合うことは、これからの社会生活をおくる上でも必要なことであろう。

(3) と子どもシリーズで第何回の所に興味をもったかについては以下の通りである。

{1} 1回目は学生に児童期を振り返ってもらい、手記形式でレポートを書いてもらう。プライバシーの侵害をしたくないので、書きたい人にだけ書いてもらい、書きたくない人には児童期にかかわらず書きたい事だけを書いてもらう。各自のレポートを披露するので、人に見られてまずい人は、その旨を伝えておくように約束した。

{2} 2回目は1回目のレポートを披露する形で課題を整理した。3回目以降は整理された課題を中心に講義していくが、どんな課題に整理されるかわからないので、とりあえず、以下のようなテーマを設定した。

{3} 3回目「親と子ども」45%、理由は、「最近自分たちの頃と親と子どもとの関係が変わってきており、それについての問題に興味を持っていたため」「子どもが人格形成される上で、最も影響があると思うこと」「みんなの親子関係が面白かった」である。{4} 4回目「教師と子ども」

11%、理由は「自分や他の人が今まで出会った教師について話すことで、教師に必要なことが何なのか考える機会になったため」である。{5}「授業と子ども」0%、{6}「塾と子ども」0%、{7}「不登校と子ども」0%、{8}「いじめと子ども」11%、理由は、「いじめに興味があったから」である。{9}「校則・体罰と子ども」11%、理由は「受講者のそれぞれの体験やルールが様々であり、聞いている事が面白かった」である。{10}「思春期と子ども」11%、理由は、「過去で一番悩む時期だと思うので、改めて自分の思春期を振り返ってみたかった」である。{11}「読書・漫画と子ども」0%、{12}「テレビと子ども」11%、理由は「子どもはどのようにテレビとかかわっているか」というような影響を受けているか」である。{13}「パソコン・テレビゲームと子ども」0%、{14}「対人関係と子ども」0%、{15}「まとめとレポート」

(4)「30分講義、30分討議、30分各班からの討議内容報告と筆者のまとめという時間配分について」「良い」56%、「わからない」22%、「悪い」22%である。「良い」理由は、「話し合いの時間が多いことは良かったが、内容のまとめが長すぎて結局何が言いたいかわからないことがあったため」「討議が長くてもいいと思うけど調度良いと思う」「もう少し討議の時間があっても良かったのではないか」「まとめがわかりづらかったです」である。「わからない」理由は、「時々、討議の時間が足りないときがある」である。「悪い」理由は、「討議の時間をもっと増やすべきだと思う」「考えをより深めるため討議時間を増やすべき」である。中途半端な時間帯にはすべきではなかったのかも知れない。

(5)「グループの作り方において」「非常に良い」10%、「良い」60%、「わからない」30%である。「非常に良い」理由は、「毎回違うメンバーで話すことができるから」である。「良い」理由は、「グループが固定されていないので、色々な人の意見を聞くことができるから」「色々な人の話が聞けるため」「いろんな人と話せたから」「意見がでるグループとでにくい

グループがあった」「いつも同じじゃないので良い」である。「わからない」理由は、「通常良く行われているような作り方であって、良いとも悪いとも思わないから」「毎回作り方が違っていったように思う」「4回生が一カ所にかたまると良くないかも」である。対人関係の作り方に関係しているのかも知れない。

(6)「発表者が毎回変わることに」「非常に良い」60%、「良い」30%、「悪い」10%である。「非常に良い」理由は、「話すことの練習になるから」「1人に負担がかかることがないため」「みんなが前に出て発表する練習ができるため」「発表も学びの1つだから。プレゼンテーション能力が身につく」である。「良い」理由は、「発表する良い練習になる。少人数なので発表もし易いし良いと思う」である。「悪い」理由は、「授業の後半は発表者がほぼ固定されており、毎回変わっていないと思うから」である。発表力を身につける意味では毎回発表者を変えた方が良いのかも知れない。

(7)「遅刻について」2, 4, 6, 7, 9回が10%ずつ、3回が50%である。2回の遅刻の理由は、「寝坊」、3回の遅刻の理由は、「支度が遅いから、でも2分程度」「毎回何かハプニングが起きる」「寝坊、自転車の不具合」「学校や生活全般にエネルギーに満ちあふれている時は、朝起きるが、エネルギーのない時は、だらだらになってしまい、時間に間に合わなくなるから」、4回の遅刻の理由は、「寝坊、体調不良」、7回の遅刻の理由は、「朝起きれなかった」、9回の遅刻の理由は、「寝坊、体の具合が悪かった」である。自覚を持たせるためのアンケートである。

(8)「欠席について」「1回」20%、「2回」20%、「3回」30%、「5回」30%である。1回の欠席の理由は、「体調不良」、2回の欠席の理由は、「病欠」「寝坊」、3回の欠席の理由は、「病」「寝坊」、5回の欠席の理由は、「寝坊」「寝坊、さぼり」「体がしんどくて起きれない」である。ここでも自覚を持たせるためのアンケートである。

以上、仮説(1)(2)は支持された。平成20年度はシラバス変更をしている。